

## 1 イスラーム教に由来する固有の学問

- ・イスラーム世界の文化は、イスラーム教とアラビア語を基本とする文化である。  
→イラン・トルコ・インドなど各地の文化と融合し、多様な文化が形成された。
- ・特に神学・法学・歴史学などは、イスラーム教と関係の深い固有の学問である。

- ・イスラーム世界には、『』と（）を解釈することで成立した（）というイスラーム法が存在した。  
→イスラーム法は、（）という学院で育成された（）と呼ばれる法学者が、研究や解釈を行った。  
→ウラマーのなかには、カーディーとして裁判や地方行政を担うものもいた。

ジャーヒズ …アッバース朝時代の神学者で、イスラーム文学の確立者。

（） …アッバース朝時代の歴史家。ハディースの収集で知られ、年代記『預言者たちと諸王の歴史』を編纂した。

（） …北アフリカのチュニス生まれの歴史家。『』で都市と遊牧民の関係から、歴史発展の法則を説いた。

（） …ガズナ朝時代のイラン人詩人で、イランの神話や歴史を題材に、『』を書いた。

（） …セルジューク朝時代のイラン人詩人で、ジャラリー暦の制定の他、詩集『』を書いた。

ハーフィズ …イル=ハン朝時代のイラン人詩人で、恋や酒について歌った。

（） …モロッコ生まれの大旅行家。14世紀に世界中を旅行し、『』という旅行記を書いた。



サマルカンドのマドラサ

ウズベキタンのサマルカンドにあるレジスタン広場には、3つのマドラサが建っている。ティムール朝の都であり、「青の都」と呼ばれる美しい都市である。



フィルドゥシー

『シャー=ナーメ』の執筆には、30年以上の月日が費やされた。神話からササン朝までの歴史が、叙事詩になっている。



イブン=バットウータ

イブンなんかが多い中で、彼だけはなぜか覚えやすい。イベリア半島、サハラ以南のアフリカ、エジプト、オスマン帝国、インド、中央アジア、中国(元)など、世界中を旅行した。

- ・各地の説話が『』としてまとめられた。
- ・美術では偶像崇拜を避けて、（）という幾何学的な装飾文様が発展したが、13世紀以降に中国から写実的な美術が伝わると、精密な（）が発展した。これは細密画（ミニアチュール）と呼ばれることもある。



シェヘラザード



映画『アラジン』

『アラビアン=ナイト』の基本設定は、シェヘラザードという娘が、千一夜にわたって王に物語を話したというものである。日本でも有名な話がたくさん入っている。



アラベスク



『集史』の挿絵

アラベスクはイスラーム世界の壁面装飾に多く見られる。写本絵画は挿絵として発展した。左はムハンマドが啓示を受けるシーン。ムハンマドの顔を描いていることに注目。

## 2 ギリシアやインドからの外来の学問

・ギリシア哲学・医学、インドからの（ ）、他に（ ）や占星術など、外来の学問も大いに発展した。

→アッバース朝時代に（ ）でギリシア語からアラビア語に翻訳された。

→さらにイベリア半島の（ ）やシチリア島のパレルモなどでアラビア語からラテン語に翻訳され、ヨーロッパにも大きな影響を与えた。

（ ）…アッバース朝時代の数学・天文学者で、アラビア数学を確立した。

（ ）…サーマーン朝期の医学者。著書『 』は、ラテン語に訳されてヨーロッパでも教科書として用いられた。

（ ）…イベリア半島のコルドバに生まれ、ムワッヒド朝に仕えた。哲学・法学・医学などに通じ、特にアリストテレス哲学の注釈は、ヨーロッパにも大きな影響を与えた。『医学大全』。

## 3 イスラーム世界の経済と都市

・イスラーム都市には、礼拝所である（ ）を中心に、市場、マドラサ（学院）、病院などの公共施設が建設されていた。

・キリスト教と違って、イスラーム教では商売と金儲けが肯定されていた。

→都市には（ ）・（ ）と呼ばれる市場がたてられた。

→また商人のために（ ）と呼ばれる隊商宿も建設された。

・都市の公共施設は、（ ）という独特の寄付行為により運営されていた。



錬金術



天文学

錬金術で実際に金ができることはなかったが、化学の発展に大いに貢献した。天文学の発展はイスラームの教えとの関係も深い。バビロンを中心に天文学が盛んな地域という背景もある。



東京にあるモスク

モスクの横に建っている塔はミナレットという。そこから人の声で1日5回の礼拝の時間を知らせた。モスクの中には、メッカの方向を示す壁のくぼみがある。

## 4 新しいイスラーム

・イスラーム教の教義が発展するなかで、徐々に難解な解釈が生まれていった。

→より内面的な救いを求めて、（ ）という考えが生まれた。

※（ ）と呼ばれる人たちによって各地に広められた。

・スーフィズムからは、メヴレヴィー教団やカーディリー教団など、多くの神秘主義教団が生まれた。

・またセルジューク朝時代の神学者（ ）は、スンナ派神学とスーフィズムを融合する理論をとらえた。



メヴレヴィー教団